

AFF「ARTS For the Future!」に対して緊急要望

文部科学省大臣 末松信介殿

文化庁長官 都倉俊一殿

2021年11月17日(水) 演劇緊急支援プロジェクト

コロナ禍での文化の窮状に対して、少なくない予算が割かれ、さまざまな助成金が準備されていることに感謝しています。しかしどの助成金においても、緊急支援にも関わらず、採択の遅れ、事務作業の煩雑さが指摘されています。

「Arts For the Future!」(通称 AFF) は本年度において重要な助成制度ですが、それにおいても深刻な現状が報告されています。大きくは採択の遅れです。実施が 2021 年 12 月までに行うことが条件の助成金ながら、11 月 12 日の発表では、まだ 3510 件の採択の可否が出ていない状況です。

書類に不備が多い、というのが公式な回答になっておりますが、どこのカンパニーもひっ迫するなかできるだけ早く不備を直して戻しています。しかしながら、一度不備があると、1 か月以上 2 か月という単位で、連絡が途切れる現状がございます。

実施した「遅れによる影響調査」では、公演自体を中止・延期したカンパニーや、実施したが不採択になった場合、多大な赤字を抱えることが決定しているなど、悲痛な声が多々寄せられています。

また、緊急事態宣言が常態となった中、客席が半分での実施を強いられ、せっかく助成制度を活用しても、多大な赤字を被るケースも多くあります。

そして、これらの影響は AFF 申請による事業だけではなく、来年以降の各団体の上演などの事業計画にも影を落とし始めました。

わたしたちは、緊急支援であることを鑑み、実情に沿った助成金の設定を求め続けて参りました。本来、求めたいのは、それでも芸術を守るため公演を実施したカンパニーに対しての実際的な救済です。

それが難しい現状のなか、せめて採択の可否は早めに、また採択に関わる発表、連絡は明確な根拠を示して行っていただきたく、強く要望いたします。